

B型慢性肝炎における 診断と治療の最前線

－高感度HBs抗原定量の有用性－

日時

2013年 10月12日(土)
12:10～12:50

会場

第Ⅷ会場
パシフィコ横浜 会議センター3階 304号室

座長

村上 正巳 先生
群馬大学大学院医学系研究科
臨床検査医学 教授

演者

田中 靖人 先生
名古屋市立大学大学院医学研究科
病態医科学 教授

本ランチョンセミナーは整理券制です。
配布場所：パシフィコ横浜 会議センター
3階フォワイエ（PCセンター付近）
配布時間：セミナー当日 7:40～10:00
（なくなり次第終了）
整理券はセミナー開始5分後に無効となります。

共催

日本臨床検査自動化学会第45回大会
富士レビオ株式会社



B型慢性肝炎における診断と治療の最前線

－高感度HBs抗原定量の有用性－

名古屋市立大学大学院医学研究科 病態医科学 教授

田中 靖人 先生

HBs抗原はB型肝炎の診断だけではなく、治療効果判定への有用性が注目されている。実際に、核酸アナログやインターフェロン投与によりHBV-DNAは速やかに感度未満となる場合が多く、治療効果判定が難しいことが指摘されており、HBs抗原定量値を経時的に把握することが有用とする報告が散見されるようになった。また、がん化学療法や免疫抑制療法を行う患者におけるHBV再活性化が問題視されており、ガイドラインでは1～3か月ごとのHBV-DNAのモニタリングが推奨されている。しかし、比較的低リスクの低いリウマチ疾患や固形癌に関しては、1～3か月ごとのHBV-DNA定量のモニタリングを行うことは煩雑でコストが高く、対費用効果を考慮すると、安価で簡便な測定法が望まれている。

今回の講演では、新たに開発された高感度HBs抗原定量法(ルミパルスHBsAg-HQ:従来法の約10倍の感度[図])に関する基本性能評価に加えて、臨床症例を用いて、従来法及びHBV-DNA定量と比較検討したので、報告する。

HBs抗原試薬概要一覧表

会社名	A社	B社	富士レビオ	富士レビオ	C社	D社	
測定原理	CLIA	CLEIA	CLEIA	CLEIA	ECLIA	CLIA	
報告	IU/mL(定量)	IU/mL(定量)	IU/mL(定量)	C.O.I.	C.O.I.	C.O.I.	
サンドイッチ抗体	担体側	モノ(2種)	モノ(多種)	モノ(2種)	ポリ	モノ(2種)	モノ
	標識側	ポリ	モノ(多種)	モノ(2種)	モノ(2種)	ポリ・モノ	モノ
反応時間 (min)	30	17	30	30	30	30	
検体量 (μL)	75	20	100	100	50	100	
陽性判定基準値	≥0.05 IU/mL	≥0.03 IU/mL	≥0.005 IU/mL	C.O.I. ≥1.0	C.O.I. ≥1.0	C.O.I. ≥1.0	
*測定範囲	0.05~250 IU/mL (マニュアル希釈/自動希釈)	0.03~2500 IU/mL (自動希釈)	0.005~150 IU/mL (自動希釈)	0.1~2000	0.001~ C.O.I.	0.1~1000 Index	

*測定範囲については、理論的に数値がでる範囲として記載。

